

1 自己評価及び外部評価結果



【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190600294		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・春日部やなか		
所在地	春日部市大場675-1		
自己評価作成日	令和2年7月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9-103		
訪問調査日	令和2年8月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和2年2月1日より ALSOK介護株式会社が全面的に事業譲渡をうけ運営を任せられました。信頼関係が築かれている既存の職員とご利用様はそのままで、ALSOK介護からの異動は2名(ホーム長、フロア長)のみです。「安全・安心なALSOKグループ」の強みを生かした心地良いグループホームを目指して運営しております。コロナウイルスによる規制がある中ですが、地域交流も含めてご家族様と職員と一緒にチームとなり、ご利用者のために運営をしていきます。「チームを作る施設」「御利用者様満足度100%」をめざします。事業所理念は「ご利用者様に寄り添って潤いのある生活を支援していく」掲げております。

- 本年2月の運営移管より、理念を作成・掲示し、方針の浸透を図っています。偏ったケア・閉鎖性を是正し、より利用者の自立を支援していく方針を打ち出しています。新型コロナウイルス防止対策のため、現在は控えているものの、終息後に向けて外出・活動等様々なアイデアが温められています。
- なるべく利用者の自立を意識するよう努めており、おむつや装具の選択がなされています。トイレでの排せつを継続し、自らの意志と能力を発揮した生活ができるよう体制と環境の整備がなされています。
- 「丁寧な支援」を基調としており、研修等を通してさらに研鑽を重ねています。特に入浴・排せつ支援時には配慮に努めており、介護・支援経験の豊富な職員により利用者の安心につなげるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「ご利用者様に寄り添って潤いのある生活を支援していく」にもとづき運営しています。	本年2月の運営移管より、理念を作成・揭示し、方針の浸透を図っている。偏ったケア・閉鎖性を是正し、より自立を支援していく方針を打ち出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	包括支援センターへオープン時、ご挨拶に伺っています。6月より営業部の担当者と再度訪問しました。	新型コロナウイルス蔓延防止対策の影響もあり、終息後に地域交流の促進を図る意向をもっている。近隣に団地があり、少子高齢化が進む地域性を考慮し、貢献と親睦を目標としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元のオーナー様のご協力を頂き、オープン時に地域の方に認知症の専門施設(グループホーム)を知って頂く活動を行いました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月より運営スタートし、コロナウイルスにより運営推進会議の開催を中止しています。終息後は、対策を講じて開催する予定です。	新型コロナウイルス対策の影響により開催を中断していることから、電話連絡等により連携を図っている。終息後は地域包括支援センターや家族を招き、シニアセラピー等の活動とともに開催していく意向をもっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルスにより、春日部市グループホーム連絡協議会は現在中止しています。	行政とは利用者の生活や手続き等の相談を通じて連携を図っている。グループホーム連絡協議会への出席を通して地域の情報をつかみ、運営に活かすよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を開催しています。資料を使い勉強会を実施しています。年に2回研修会も実施し、身体拘束に関する知識を深めています。	身体拘束廃止委員会を2ヶ月に1回開催しており、「高齢者虐待」と「拘束をしないケア」について、交互にテーマとして設定している。「丁寧な支援」を基調としており、研修等を通してさらに研鑽を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1回、虐待防止委員会で事例検討を行い、勉強会を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を使い生活をスタートされている御利用者様がいらっしゃいます。今後ご利用者様へ活用できるように、制度について理解し学んで行こうと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新しく変わった制度等、契約書の内容を職員が理解できるよう、勉強会を開催します。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の状態の変化をご家族様にお知らせし連携を取っていきます。	家族にはコメントを付した便りを送付しており、近況を伝えている。家族とホームが協調し、理解と同意を得た支援体制となることを目指している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営方針が変わり、2月より新しい運営となりました。職員会議などの機会に分かりやすく変更内容を職員に伝えていきます。	全体とフロアの2つのミーティングにより方針や利用者の状況共有に努めている。効率や感染蔓延防止を考慮し、書面での回覧・時間帯の変更等も視野に入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の将来に反映できる様に、職員それぞれの才能を伸ばす努力をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの成長を把握し、個々の個性を伸ばせる様に管理業務を行い導いて行きたいです。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来る限り同業者と話をする時間を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に時間を頂き出来る限りご本人様の思いを組み取り、潤いのある生活ができるよう支援していきたいと思ひます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調時にご利用者様、ご家族様に詳しくお話をおききします。プランナーと入居時までに話を詰めて出来る限り不安なく入居が出来る様に対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「何が出来ないのか?」「ご家族様が困って居る事は何か?」「支援出来る事は何か?」を確認をしながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り今までの生活環境に近い生活がグループホームでもおくれるように支援を心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の存在感が希薄にならない様に、ご家族様との距離は大切に対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お知り合い、ご親戚、お孫さんと、なるべく馴染みの関係を崩さない様に支援に努めます。	知人の来訪、嗜好の継続を通して入所前からの習慣や関係への配慮に努めている。利用者の意思の把握により、更に支援に反映できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士がトラブルにならない様に、大きなトラブルになる前に職員が間に入り対応していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣にお住まいのご家族様も多くいらっしゃいます。散歩中にお会いする事もあり、気さくにお話をさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「ご利用者様が出来る事は見守る。」これまでのスタイル通り、出来る事は時間をかけてご本人様にして頂いています。	アセスメントとモニタリングにより利用者の意志の確認に努めている。入居前に利用していた事業者や家族からしっかりと情報を収集し、スムーズな移行につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの箸や、好きな湯呑、茶碗を使い生活して頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	休憩をしたり、庭での歩行訓練をしたりと、個人の時間を過ごしている。ご本人様のできることは見守りながら支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心にケア会議を行い、ご本人様らしい生活ができる様に支援しています。	サービス担当者会議での話し合いやモニタリング結果を反映し、ケアプランの策定・見直しに取り組んでいる。「職員が把握しやすいよう」、「わかりやすさ・重点項目の設定を意識しながら」策定に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙は当社で決められている書式を使い簡潔に分かりやすく記入している。ケアプランに反映出来る様に対応しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る事の可能性を残し、規則の中で出来る範囲でご本人様らしく生活出来る様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナウイルスにより外出自粛中ですが、終息後は地域の体操「そらまめ」体操に参加していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の医療施設内でコロナウイルスが発生した為、現在はホームドクターに受診をお願いしています。	入居時に利用者・家族の要望を聞き、かかりつけ医の継続、協力医療機関の往診を選択できるよう配慮している。通院時の負担やリスクを考慮し、適切な受診体制の整備にあたっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療に医療連携看護師が立ち合っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個人情報保護のため医療機関と直接連絡が出来ないので、ご家族様から連絡していただき情報を頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度のご利用者様も多く、今後の課題は「どの様なかたちでご利用様とご家族様との連携が出来るか？」ということが課題です。	重度化と終末期の支援については家族の理解と協力が不可欠であり、入居時に同意をとるものの、その後の状況等を考慮し、話し合いのもと進める方針をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今まで急変が少ないホームでした。対応マニュアルをもとに初期対応方法等、ホームでの対応を全職員と共有していきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	用水路が近い為、水害を想定した避難訓練を実施し、職員に日々災害に対する意識づけをしている。訓練は定期的におこないます。	火災想定を中心に定期での避難訓練を実施している。事業継続計画の策定等により水害への対応も協議・想定している。	防災対応については近隣住民・関係機関との相互防災協力が必要であることを認識しており、今後関係構築や具体的協力内容を詰めていく意向をもっている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の氏名に必ず「さん」をつけて呼んでいます。名前に「ちゃん」などをつけない様にはしています。	入浴・排せつ支援時には利用者の羞恥心に配慮するよう努めている。介護・支援経験の豊富な職員により丁寧なケアを継続しており、利用者の安心につなげるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りご本人様の意思、意向を確認します。おやつなどは選べる様に対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、今まで通りの生活が出来る様に個人の意思で動ける様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、服を選んで頂くなど、いろいろなことを自ら選んで決めて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好きな柄の湯呑、茶碗、お箸などを選んで頂いています。	きざみ、おかゆ等利用者の嚥下状態、また健康状態を考慮した食事提供がなされている。水分摂取量について細かく記録しており、利用者の好みを把握し、適切な摂取量が確保されるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表を使用している方もいらっしゃいます。職員が水分量の管理を行い、健康管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。口腔内の変化を職員が確認出来る様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な方はトイレで排泄をして頂いています。オムツとトイレの併用も行っています。	なるべく利用者の自立を意識するよう努めており、おむつや装具の選択がなされている。トイレでの排せつを継続し、自らの意志と能力を発揮した生活ができるよう体制と環境の整備がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤に頼らない様に起床時より水分摂取量に気を付けています。下肢筋力の低下予防のため、なるべく歩いて頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人で入浴できる方には、準備と見守りを行っています。出来るだけ入浴する日の間隔が空かない様に声掛けをしています。	入浴を嫌がる利用者に対しても無理強いせず、声かけの工夫や自然な促しにより清潔が保持されている。浴室の整備をし、利用者・職員の軽減負担を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	過度なスケジュールにならないようにスケジュールを検討しています。居室内の空調管理は職員が小まめに行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関して職員が事務所で管理をしています。毎食後、必ず職員によるWチェックを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事は、時間をかけても一人でしていただけるように職員同士が相談して実行しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナウイルスの影響で外出は自粛しています。落ち着いて来たら職員と相談し、レクリエーションの時間に外出も検討しています。	年間で行事計画が策定されており、利用者が季節を感じられるよう配慮されている。新型コロナウイルス感染防止により外出機会は減少しているものの、広い敷地を活用して散歩するなど工夫が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理は個人では難しい為、ご家族様に管理をお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来るだけ自宅の環境と同じように過ごせるように対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日分担して掃除を行っており、ホームで居心地よく過ごせるようにしています。	業者の利用、職員の尽力により共有空間の清潔が維持されている。新型コロナウイルス感染防止対策前から消毒等の対応がなされており、面会の予約制等家族への協力を依頼し、衛生環境の確保に努めている。	2ユニットでの運営が始まり、職員配置等の変更が予定されている。職員の負担・利用者のリビングでの過ごし方・これまでの習慣の見直しを考慮し、支援を進めていくことが期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファがあり、休憩する事も出来る様になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に自宅で愛用していた小物などを飾り、生活しています。	利用者一人ひとりのプライバシーが確保された居室が用意されている。テレビ鑑賞、休憩をとる等思い思いに過ごす環境が提供されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が安全・安心に生活出来る様に、環境に十分に配慮をしている。転倒の恐れがある障害物、危険物がない様に対応しています。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームみんなの家・春日部やなか

目標達成計画

作成日 : 令和2年8月21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	4月6日以降コロナウイルスにより外出自粛となり、ホーム内での活動が制限されてしまいました。 近隣の方へ運営会社が変わったことのご挨拶やグループホームの活動内容を伝える事が出来ておりません。	近隣の方をお呼びして一緒に防災について学び地域のグループホームとしての役割を築きたいです。 年内中に（コロナウイルスの状況を確認）春日部消防署員の方をお呼びして実際の水害発生時や、火災発生時の避難行動等の説明を受ける。 実際に避難訓練の様子を見て頂き、改善点や今後のテーマなどを指導して頂きたい。	弊社の地域営業担当者と近隣施設へ挨拶回りを行います。 近隣の方へ 挨拶回りをしながら「避難訓練のお知らせ」や勉強会の参加のお願いをします。 ご家族様には案内文などを付け加え一言通信と一緒に送信します。 体験参加型 避難訓練を実施したいです。	6ヶ月
2	52	運営方法が変わり、各ユニットごとに階数をわけ日中の生活も分かれてすごすことになった。職員も戸惑いの中ケアをしている。職員配置基準内での業務をし、ご利用者様も新しい生活スタイルを築いて頂くようにする。 少人数グループホームらしい生活を通し、今まで出来て居なかった個別ケア支援を充実して行きたいです。	職員は初心の介護に戻り、「個別ケアとは？」「ご利用者様の一人一人の残存能力について」など、職員全員で検討しケアを実行できる様に努力をします。	3対1ケアを再度確認し、職員としての支援「出来る事、出来ない」事の見極めをします。 ご利用者様が安全・安心な生活ができる様にユニット職員と一緒に検討をします。	3ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。